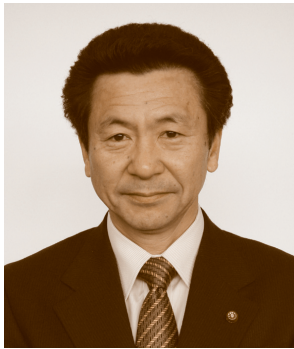


## 情報ビジネス校の今後について



浅沼 幸雄 議員

**【質問】** 県教委の発表では来年度から生徒の募集停止となるが、市として今後存続要望等の活動を行う予定があるのか。仮に行わない場合どのような活用策を図るのか。

情報ビジネス校は、昭和63年4月に県内の先陣をきって情報ビジネス科2学級を設置し、定員を上回る生徒が入学したと記憶している。

現在では県内はもとより津々浦々に情報ビジネス系の学校や学科が設置されているが、情報ビジネス校はその草分け的存在であると認識している。このような歴史を鑑みたときに市として伝統の継承や施設の利活用をぜひ検討すべきではないか。

少しとっぴな提案になるかもしれないが利活用について私の考えを述べてみると、遠野市立として或いは学校法人等を誘致してIT関係を専門に学習する全寮制の学校として全国から生徒を集めて再スタートし、卒業生は、これも市内に誘致したIT関連企業に就職するというものである。

**【市長】** 平成17年7月に示された県立高等学校新整備計画(後期計画)の中で、分校の取扱いについては、「入学者が募集定員の半数を下回る状況または当該分校に進学した者のうち分校所在地の中学校からの進学割合が半数以下が2年続いた場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合する。」とされている。情報ビジネス校の入学状況をみると、平成18年度の入学者は38名で、そのうち宮守中学校からの入学者は10名、平成19年度は入学者36名、宮守中学校からは13名で、地元中学校からの入学者が半数に満たない状況が2年続いた。宮守町民の思いは十分理解できるが、県教委の存続要件を満たせない状況下での存続要望は難しいと考える。今後は質問者の提案も含めて活用策を検討していく。



▲来年度から生徒募集を停止する遠野高校情報ビジネス校

## 宮守IC周辺を軸に企業誘致運動を



菊池 巳喜男 議員

**【質問】** 釜石道の宮守ICは西の玄関となる。高速道路の利便性を発揮させ周辺地域である綾織・鱒沢・小友地区等の雇用求心力を高め地域活性化につながる事が急務と考えられるが、取り組み状況は。

**【市長】** 高速インフラ整備は企業誘致活動の追い風となる。IC周辺の環境を活かし誘致を一層進めたい。現在、

市内では工場増設2社、新規誘致2社、誘致内定2社、小友地区でも工場増設予定1社。誘致担当配置以来、約30名の雇用を新規確保でき工場の新設・増設が完成すると約160名の雇用が確保できる。

**【質問】** 携帯電話の不感地帯が数多くあり災害・事故等の緊急性に対応する携帯電話エリアの拡大が要望されるが、市内の不感地域の状況と解決策は。

**【市長】** 不感地帯は宮守・小友・附馬牛・土淵の比率が高く約700世帯と見込まれ、今年度は、ある携帯電話業者は8ヶ所の基地局設置等によりエリア拡大を進めている。

遠野テレビの光ファイバーの活用による基地局設置に向けた提案もし、結果として小友・附馬牛への基地局が設置された。今後も事業者積極的に設置要望を行い、不感地帯の解消を図りたい。

**【質問】** 少子高齢化の中、地域に若者が定住する環境づくりとして、各町に市営住宅建設や空き家等の改修工事を行い環境整備ができないか。

**【市長】** 現在は老朽化の著しい八幡住宅126戸を対象に建て替えを進めている。子育て世代や定住支援での民間住宅等の家賃助成の検討や住宅設置場所も通勤圏拡大を視野に入居者のライフプラン環境にも配慮したい。

**【その他の質問】** 中学校の不登校対策・再編について、小友地区より土室までの道路整備等。



▲工事が始まった宮守インターチェンジ